

平成17年度 一般財源研究費傾斜的研究費(全学分)研究報告書

研究テーマ ①大都市の課題解決につながる研究 ②教育改善研究 ③若手研究者奨励研究]

研 究 課 題 名	健全で適切な行政のあり方	
研究者または研究代表者名	所属部局名	職 名
渡辺 隆裕	都市教養学部 経営学系	教授
研究分担者名	部局名・所属研究機関名	職 名
金谷 貞男	都市教養学部 経営学系	教授
長瀬 勝彦	都市教養学部 経営学系	教授
脇田 成	都市教養学部 経営学系	教授
飯村 卓也	都市教養学部 経営学系	講師

研究実績の概要 (600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)

本研究では、公共事業入札や公売オークションの技術からの視点や、消防活動を中心とした都市の防災などの観点、またマクロ経済学の観点から「健全で適切な行政はいかにあるべきか」という問題を考察した。

公共事業入札や公売オークションという観点からは、インターネットオークションの偽装入札という問題に着目し、この問題を考察した。具体的には、ファーストプライスとセカンドプライスの代表的な2つのオークション形式について着目し、このどちらが偽装入札に強いのか、また偽装入札のリスクを考慮してどちらが開催者に高い利益を与えるのかについて明らかにした。この結果は2006年3月に電子商取引の国際学会PRIWEC2006で発表された。また消防に関係する危機管理を効果的に進めるために、人間の意思決定と感情との関係、人間の記憶と経験が意思決定に及ぼす影響、人間の意思決定に表れるバイアスなどについて研究を進めた。この結果は『一橋ビジネスレビュー』に数編の論文として発表された。またマクロ経済学の観点からは「失われた10年」において、不良債権のマクロ的インパクトを考察し、この結果は財務省の『フィナンシャル・レビュー』などに掲載された。

研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等]

著者 (講演者)	論文題目 (発表題目)	発表誌 (発表大会名)	年月
<u>Takahiro Watanabe</u> <u>Takehiko Yamato</u>	Cheating in Second Price Auctions with Affiliated Values	Proceedings of PRIWEC2006 (IEEE Pacific Rim International Workshop on Electronic Commerce)	March, 2006
<u>Junichi Imai and Takahiro Watanabe</u> <u>渡辺隆裕</u>	A Multi-Stage Investment Game with Real Option Analysis 「企業の社会的責任と情報公開—ゲーム理論の観点から」	9th Annual Real Option Conference, in Paris 『ESP』内閣府2005年11月号 No.403, 23-26	June, 2005 2005年11月
<u>長瀬勝彦</u>	感情と意思決定	『一橋ビジネスレビュー』53, 4, 80-95.	2006. 3
<u>長瀬勝彦</u>	経験とアナロジーの意思決定	『一橋ビジネスレビュー』53, 3, 104-116.	2005. 12
<u>長瀬勝彦</u>	市場からの撤退と事業売却の意思決定	『一橋ビジネスレビュー』53, 2, 86-97.	2005. 9
<u>長瀬勝彦</u>	意思決定と理由：なぜ意思決定に理由が必要とされるのか	『組織科学』39, 1, 58-68.	2005. 9
<u>長瀬勝彦</u>	意思決定の本質：合理性と感情	DIAMOND ハーバードビジネスレビュー』30, 8, 127-130.	2005. 8
<u>長瀬勝彦</u>	市場への参入とM&Aの意思決定	『一橋ビジネスレビュー』53, 1, 78-89.	2005. 6
<u>脇田成</u>	「春闘のマクロ経済的役割」	『連合総研レポートDIO』2006年6月号.	2006年6月号
<u>脇田成</u>	「国民所得と失われた10年のメノコメトリックス	『経済セミナー』2006年4月号 p.29-33.	2006年4月号
<u>脇田成</u>	『エコナビ 経済学入門』	日本評論社	
<u>脇田成</u>	「不良債権処理のマクロ的インパクト 失われた10年第三の仮説」	景気日付研究会沼津コンファレンス発表論文.	2006年3月 2006年2月
<u>脇田成</u>	「在庫循環図の理論と計量分析」	浅子和美・宮川努編『現代の景気循環：理論と実証』東京大学出版会近刊.	2006年近刊
<u>Shigeru Wakita</u>	“The Lost Decade in the Japanese Labor Market: Labor's share and Okun's Law”	Public Policy Review No.2 p.77-96.	2005年9月
<u>脇田成</u>	「労働市場の失われた10年：労働分配率とオークン法則」	『フィナンシャル・レビュー』財務省78号 p.51-70.	
<u>脇田成</u>	「労働分配率をどうとらえるか」	『日本経済研究所月報』2005年6月号 p.36-42.	2005年
<u>脇田成</u>	「マクロ経済危機のもとでの日本の労働慣行の再検討」	『ESP』内閣府2005年5月号 p.37-41.	2005年6月号 2005年5月号
<u>Iimura, T., Murota, K., & Tamura, A.</u> <u>飯村卓也</u>	Discrete fixed point theorem reconsidered 離散一般均衡の存在について	<i>Journal of Mathematical Economics</i> 41:1030-6 数理経済学研究センター, 慶応義塾大学	2005年10月 2005年12月
<u>Iimura, T. & Yang, Z.</u>	Discrete parametric concave programmings and the direction preserving property of the solution correspondences	FBA Working Paper Series No.235, Yokohama National University	2005年12月